

Support for **Woman Doctors** ～私からあなたへ～

テーマ「女性医師支援～支援の受け手から**「ありがとう」**～」

氏家 士富子 先生【茨城県 30 期】

茨城県立中央病院総合診療科(育児休業中)

「女性」「医師」「支援」。

一口に「女性」といっても人生いろいろ。「結婚」「子ども」の有無などでの分類ですむものではなく、性格、家族背景、趣味など様々です。妊娠・出産・子育ては「いのち」のことであり、自分の力ではどうにもしようがないこともあり必ずしも望んだとおりになるとは限りません(望んだ以上になることもあるでしょう)。

「医師」だから、「女性医師」だから大変、ということもあります。でも逆に「女性」「医師」であるがゆえのメリットもあります。

「支援」がどうしても必要なのか、あるとありがたいのか。それは、医師という職業に専念するには精神的・身体的に「身重」になるからで、簡単に言うと「それまでできていたような働き方はしにくくなる、融通の利く勤務体制が大切になる」からです(もちろん妊産育をしつつ「男性と同様にフルタイムで働く」女性医師もいます)。

女医は「3 歩歩くと忘れるニワトリ」ではありません。受けた恩は覚えています。「つるの恩返し」のつる、「かさこ地蔵」の地蔵のように、今はまだ無理でも将来お役に立ちたいと思っています。

「女性医師支援」は性別に関わらず、自分の療養、家族の介護、子育てなどで「フルで働けない事情がある医師の支援」につながります。おもてなしならぬ「おたがいさま」でワークライフバランスが良好な組織・病院には、「働きやすい職場」として医師が集まるようになるでしょう。

この場をお借りして、私と家族をサポートしてくださっているすべての方々と、日本中の医療現場で女性医師・子育て医師をサポートしてくださっている(割を食っている!?)先生方にお礼申し上げます。これまでも、これからも、**ありがとうございます**。

「いのち」に接する機会の多い医療に携わる一人として、生きやすい社会づくりのために act locally にぼちぼちいきたいと思っている今日このごろです。

後輩医師・学生へ一言メッセージ

「①『いい加減』は『いい(=良い)かげん』。②生きてるだけで 80 点。③**今を大切に。**」



【おススメ資料】

★★★★★ 青木眞先生インタビュー記事

(週刊医学界新聞 2014 年 9 月 8 日 第 3091 号 シリーズ「この先生に会いたい!!」公開収録版

http://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA03091_01)

★★★★「海からの贈物」Anne Morrow Lindbergh (新潮文庫)

★★★ 空や海の写真集たち～「空の色」HABU、「いつか、楽園へ」三好和義、他。

★★「女性医師の多様な働き方を支援する」日本医師会女性医師支援センター、「がんばれ！女性医師・医学生一仕事とパーソナル・ライフの充実をめざして」日本家庭医療学会編集(プリムド社)